

西荻北二丁目ケヤキ診断報告書

令和 6 年 9 月

NPO 法人東京樹木医プロジェクト

目次

1.	診断の目的	1
2.	診断の対象地と対象木	1
3.	診断内容	2
(1)	診断担当者	2
(2)	外観診断の内容および方法	2
4.	診断結果	5
(1)	対象木の概要	5
(2)	外観診断結果	6
5.	総合考察	9

参考資料

1. 診断の目的

着葉期での外観診断を実施することにし、このデータも今後の処置等の参考にすることを目的とする。

2. 診断の対象地と対象木

対象地を下図に示す。

■所在地 東京都杉並区西荻北二丁目 149 番 3 他（地番）

■対象木 ケヤキ *Zelkova serrata*

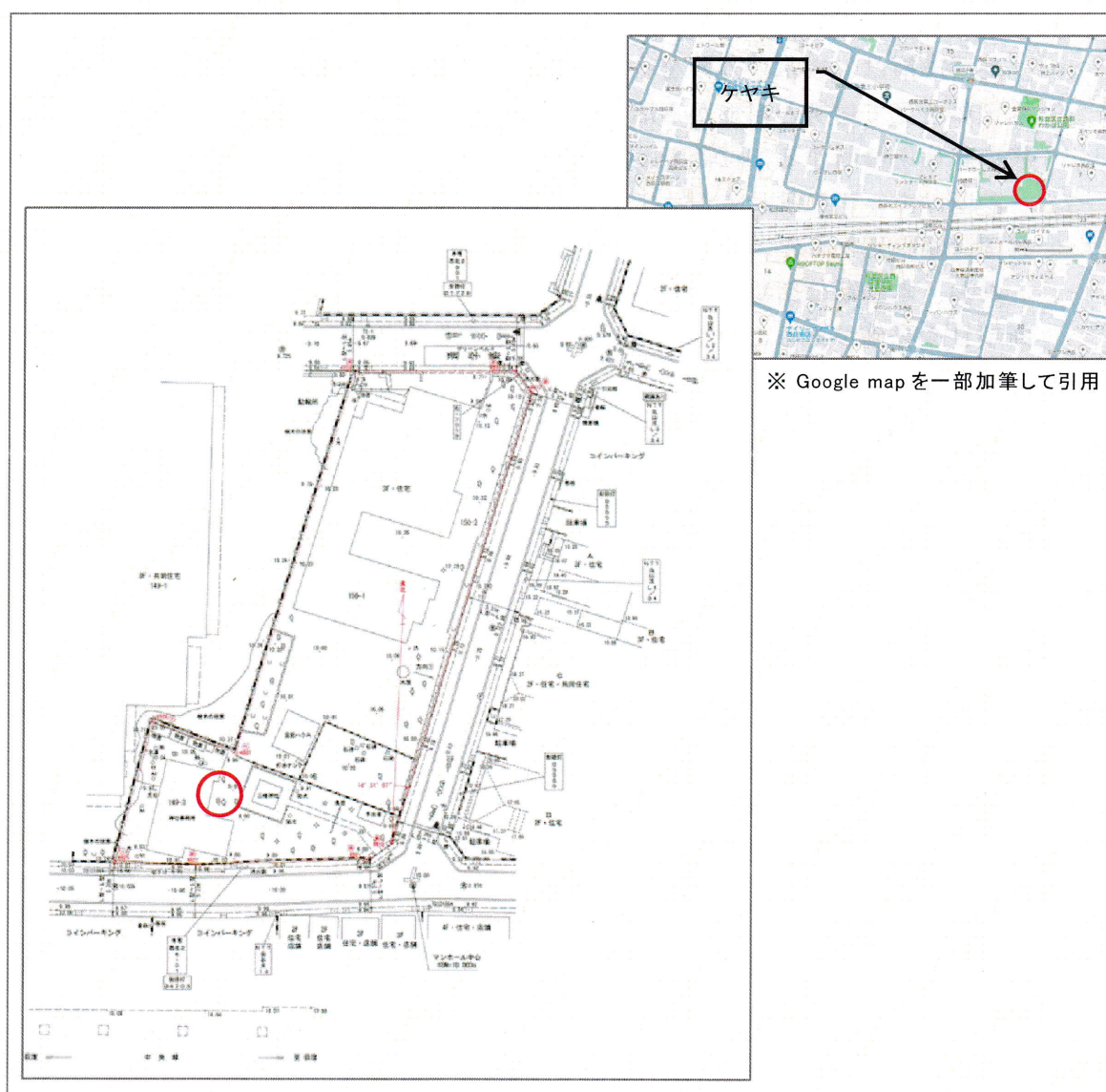


図 1 調査対象地

3. 診断内容

(1) 診断担当者

診断を担当した者は、一般財団法人日本緑化センターが認定し、NPO 法人東京樹木医プロジェクトに所属する次の樹木医が行った。

- 和田博幸* 認定No.794

(2) 外観診断の内容および方法

樹木診断は東京都建設局が策定した「令和 3 年度 街路樹診断等マニュアル」に示された「街路樹診断カルテ」（図 3-1, 3-2）を用いた。

外観診断は、樹木の外観を目視と診断用具によって総合的に診断するもので、樹木全体を見て樹勢と樹形から活力を診断する活力診断と、根元・幹・骨格となる大枝の状態を診断する部位診断から構成される。

診断はカルテの項目に沿って活力診断及び部位診断を行い、その結果に基づいて外観診断判定とした。

なお、本診断は街路樹に適用すべきもので、大木や古木には必ずしも適さない診断項目や評価があることは承知しておくものとする。

街路樹診断カルテ									
No.		事務所名:							
路線名		樹木種		診断日	年 月 日				
樹木番号		樹高(H)=	m	幹高(D)=	cm	枝張(W)=	m		
樹種名		植栽形態	☐ 単独樹 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☐ その他			支柱	☐ 良好 ☐ なし ☐ 破壊		
活力診断	樹勢	枝の伸長量、梢の結頭、枝の結頭、葉の密度、葉の大きさ、葉色等				良 — ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 — 不良			
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの配置及び欠損、枝の密度と配置等				☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5			
	所見								
	活力判定	☐ 健全か健全に近い ☐ 注意すべき被害が見られる ☐ 著しい被害が見られる ☐ 不健全							
	診断内容	部位	根元	幹	骨格となる大枝				
	樹皮枯死・欠損・腐朽 (周囲長比率)	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上				
	芯に通していない開口空洞 (周囲長比率)	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上				
	芯に通した開口空洞 (周囲長比率)	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上				
	上記3項目のうち 最大被害部の周囲長比率	被害部縦 / 周囲長比率 = 周囲長比率 %	被害部縦 / 周囲長比率 = 周囲長比率 %	枯枝		☐ なし ☐ あり ()			
				スガカサ		☐ なし ☐ あり ()			
部位診断	キノコ(子実体)	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()				
	木組打診(異常音)	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()				
	分枝部・付根の異常	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()				
	洞枯れなどの病害	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()				
	虫穴・虫フン、ヤニ	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()	☐ なし ☐ あり ()				
	根元の歪らぎ	☐ なし ☐ あり ()	建築境界線へ車道側		建築境界線へ歩道側				
	倒壊・侵入異常	☐ なし ☐ あり ()	幹	☐ なし ☐ あり	幹	☐ なし ☐ あり			
	巻き根	☐ なし ☐ あり ()	()	()	()	()			
	ルートカラー	☐ 見える ☐ 見えない	枝	☐ なし ☐ あり	枝	☐ なし ☐ あり			
	露出根被害	☐ なし ☐ あり ()	()	()	()	()			
不自然な傾斜	☐ なし ☐ あり ()								
所見									
	判定・処置	部位	根元	幹	骨格となる大枝				
	健全か健全に近い	☐	☐	☐	☐				
	注意すべき被害が見られる	☐	☐	☐	☐				
	著しい被害が見られる	☐	☐	☐	☐				
	不健全	☐	☐	☐	☐				
	処置	判定が必要	☐	☐	☐	☐			
	機器診断が必要	☐	☐	☐	☐				
	外観診断判定	☐ A: 健全か健全に近い ☐ B1: 注意すべき被害が見られる ☐ B2: 著しい被害が見られる ☐ C: 不健全							
	判定理由								
機器診断	測定データ1	部位()	腐朽空洞率: %	L/R率: ①	②	③	④		
	測定データ2	部位()	腐朽空洞率: %	L/R率: ①	②	③	④		
	所見								
総合判定	☐ A: 健全か健全に近い ☐ B1: 注意すべき被害が見られる ☐ B2: 著しい被害が見られる ☐ C: 不健全								
判定理由									

図 2-1 街路樹診断カルテ(表面)

街路樹診断カルテ					
No. _____					
処 置 内 容	必要性	☐ なし ☐ あり	緊急性	☐ なし ☐ あり	
		☐ 要観察(長期周期)		☐ 要観察(短期周期)	
	☐ 剪定(☐ 枯枝 ☐ 腐朽枝等 ☐ 支障枝)		☐ 風圧軽減 ☐ スタブカット ☐ 巻き根)		
	☐ 樹体保護()		☐ 植栽基盤の改善()		
	☐ 根上がり()		☐ 病虫害防除()		
	☐ 更新()		☐ その他()		
	摘 取				
立地平面図 診断概要図					
そ の 他 注 記 事 項					
次回診断		☐ フォローアップ診断(☐ 要機器診断 測定部位: _____) ☐ 外観診断			
次回再診断時期		☐ 1年後 ☐ 2年後 3年後(_____ 年度)			
位置座標(WGS84)		緯度		経度	

図 2-2 街路樹診断カルテ(裏面)

4. 診断結果

(1) 対象木の概要

① 調査月日 2024（令和6）年8月31日（土）

② 樹種 ケヤキ *Zelkova serrata*

③ 形状

樹高： 24m

根元幹周： 7.79m

胸高幹周： 4.65m

枝張り： 南北 11.0m

（2024年2月20日のデータを引用）

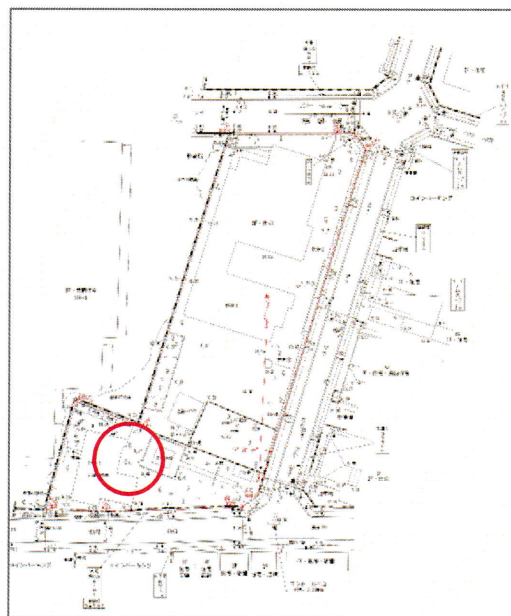


図 3 ケヤキの生育位置

④ 全景



図 4 ケヤキの全景

(2) 外観診断結果

外観診断の結果を「街路樹診断カルテ」(図 5-1, 5-2) に示した。

街路樹診断カルテ

No. 1

事務所名: 清水総合開発株式会社

路線名		樹木区	和田博幸	診断日	2024年8月31日
樹木番号	No.1	樹高(H) =	24 m 幹周(C) = 465 cm 枝張(W) = 11 m		
樹種名	ケヤキ	植栽形態	☐ 単独樹 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☒ その他	支柱	☒ 良好 ☐ なし ☐ 破損

外観診断	樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等			良 — ☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 — 不良
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等			☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4 ☐ 5
	所見	梢の枯れはわずかで葉は茂るものの全般的に量は少なく、梢の境が不連続に散生する。北東側の枝以外の葉の大きさはやや小さい。大木で根元の全周でベッコウタケが発生し、東と南側の樹皮欠損部から幹の内部が空洞になっているのが確認される。樹形は2本のムクノギが隣接することで、ケヤキの下枝が競合し枯れ上がる。他にも大枝の枯れが見られる。			
	活力判定	☐ 健全か健全に近い ☐ 注意すべき被害が見られる ☒ 著しい被害が見られる ☐ 不健全			
	診断内容	部位	根元	幹	骨格となる大枝
	樹皮枯死・欠損・腐朽(周囲長比率)	☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上
	芯に達していない開口空洞(周囲長比率)	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上
	芯に達した開口空洞(周囲長比率)	☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上
	上記3項目のうち最大被害部の周囲長比率	被害部幅 50 被害部周囲長 779 周囲長比率 6.4 %	被害部幅 被害部周囲長 周囲長比率 %	枯枝 スタフカット ☐ なし ☒ あり	☐ なし ☒ あり
	キノコ(子実体)	☐ なし ☒ あり(ベッコウタケ)	☐ なし ☒ あり(ベッコウタケ)	☒ なし ☐ あり	☐ なし ☒ あり
木槌打診(異常音)	☐ なし ☒ あり(大 G.L. 0-0.3m)	☐ なし ☒ あり(大 G.L. 0.3-1.0m)	☐ なし ☐ あり(高所のため未測定)	☐ なし ☐ あり(高所のため未測定)	
分岐部・付根の異常	☒ なし ☐ あり	☐ なし ☒ あり(最下位の枝の付け根)	☐ なし ☐ あり(高所のため未測定)	☐ なし ☐ あり(高所のため未測定)	
胴枯れなどの病害	☒ なし ☐ あり	☒ なし ☐ あり	☒ なし ☐ あり	☒ なし ☐ あり	
虫穴・虫フン、ヤニ	☒ なし ☐ あり	☒ なし ☐ あり	☒ なし ☐ あり	☒ なし ☐ あり	
根元の揺らぎ	☒ なし ☐ あり	建築限界越え 車道側	建築限界越え 歩道側		
鋼棒貫入異常	☐ なし ☒ あり(北側根張り部 30cm)	幹 ☒ なし ☐ あり	幹 ☒ なし ☐ あり		
巻き根	☒ なし ☐ あり	()	()		
ルートカラー	☒ 見える ☐ 見えない	枝 ☒ なし ☐ あり	枝 ☒ なし ☐ あり		
露出根被害	☒ なし ☐ あり	()	()		
不自然な傾斜	☒ なし ☐ あり				
所見	根元東側にベッコウタケ腐朽による開口空洞(L60×W50)あり。開口上部には前年の子実体に新たな子実体が重なって発生。 根元南側から西側にかけて幹のくぼみ部2ヶ所と北側のくぼみ2ヶ所にベッコウタケ子実体が発生し、腐朽部は小さく開口(L5×W5)し、その周辺に打診音異常あり。要根株診断。 根元東側2ヶ所のくぼみに新たにベッコウタケの子実体が発生。 東側と北側にムクノギが近接し、ケヤキの下枝と競合。ケヤキの下枝が枯れて残る。 南側、G.L.12mに枯枝L3mあり。 南側、G.L.12.5mに枯枝L4mあり。 南側、G.L.7mに枯枝L5mあり。 南側、G.L.7.5mに枯枝L5mあり。				
判定・処置	部位	根元	幹	骨格となる大枝	
健全か健全に近い	☐	☐	☐	☐	
注意すべき被害が見られる	☐	☐	☐	☒	
著しい被害が見られる	☒	☒	☒	☐	
不健全	☐	☐	☐	☐	
処置	剪定が必要	☐	☐	☒	
機器診断が必要	☒	☒	☒	☐	
外観診断判定	☐ A:健全か健全に近い ☐ B1:注意すべき被害が見られる ☒ B2:著しい被害が見られる ☐ C:不健全				
判定理由	根元のくぼみにはベッコウタケの子実体が四方に発生し、今年も新たな子実体の発生がある。幹では地上高約1mで打診音の異常が全方位にある。東側の根元には開口空洞もあり、幹の内部に空洞が広がっていると考えられ、この状況から倒木の危険性があると考ええる。				
測定データ1	部位 (G.L. 0.3m) 腐朽空洞率: 81.8 % 腐朽診断カルテ(ドクターウッズ)参照				
測定データ2	部位 (G.L. 0.6m) 腐朽空洞率: 54.6 % t/R率: 根株診断カルテ参照				
機器診断	機器診断の結果は、2024年2月20日実施のデータを流用した。詳細は本報告書の巻末に添付。 腐朽診断(ドクターウッズ)では根元からG.L.1m程度まで幹の内部が空洞となっており、G.L.0.3mでの腐朽空洞率は81.8%であった。また、レジ診断ではG.L.0.5mにおいて、4方向でt/R率が30%を下回っていた(根株診断カルテ参照)。これらの結果から、根元の腐朽は著しく、自立強度は大きく低下していると考ええる。				
総合判定	☐ A:健全か健全に近い ☐ B1:注意すべき被害が見られる ☒ B2:著しい被害が見られる ☐ C:不健全				
判定理由	根株とそれにつながる幹の腐朽は進行中で、腐朽は樹勢にも影響し枯れ枝が発生している。樹勢は衰退傾向にあり、自立強度も大きく低下していると考ええる。				

図 5-1 ケヤキの外観診断結果

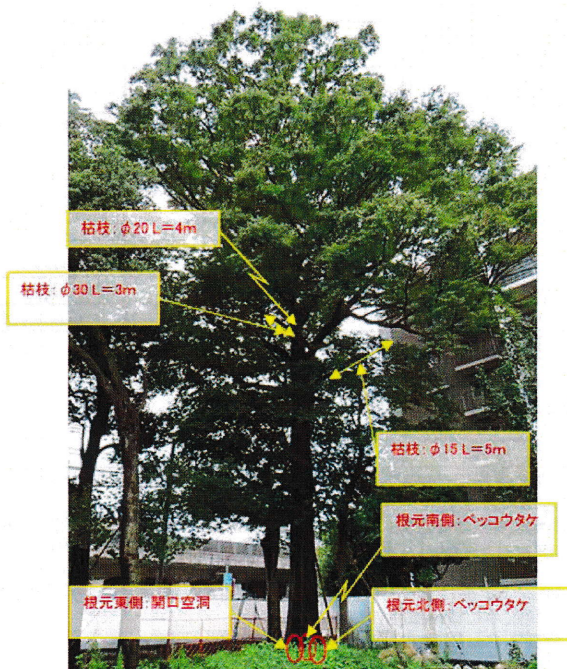
街路樹診断カルテ

No.

処置 内容 摘要	必要性	☐ なし ☒ あり	緊急性	☐ なし ☒ あり
	☐ 要観察(長期周期)		☒ 要観察(短期周期)	
	☐ 剪定(枯枝 腐朽枝等 支障枝)	☐ 風圧軽減	☐ スタブカット	☐ 巻き根
	☐ 樹体保護(根上がり(更新(	☐ 植栽基盤の改善(☐ 病虫害防除(☐ その他(		



立地平面図



診断概要図



東側根元の開口空洞
新たな子実体の発生を確認



北側のベッコウタケの子実体発生部



東側根元に新たに発生したベッコウタケ子実体

・根元に新たなベッコウタケの子実体が発生し、根元の一部で腐朽が進行していると考えられる。
・葉の茂りは一定量あるが、樹冠上位においては茂りがやや劣り、ひと塊の梢が散在するような状況になっている。

その他特記事項

次回診断	☒ フォローアップ診断(☒ 要機器診断 測定部位:ドクターウッズ・同位置) ☐ 外観診断
次回再診断時期	☒ 1年後 ☐ 2年後 3年後 (年度)
位置座標 (WGS84)	緯度 経度

図 5-2 ケヤキの外観診断結果

5. 総合考察

今回の診断では樹冠全体に着葉している状況から、活力診断の樹勢は評価 2 だが、過去に大枝が折れた痕が未閉塞で、幹に樹皮欠損または腐朽があったり（図 6）、葉の大半が小さいなど樹勢の活力度が 3 に近い診断項目もあり、半年前の落葉期に実施した診断時より、樹勢が回復しているわけではない。葉が小さいことは根の発達が制限されているか、または根に障害があり、水分が十分に吸収できない状態である推測させる新たな知見も得られた。

樹形の評価については、枝の密度が全体的に薄く、幹には枝枯れ痕の欠損もあることから評価は 3 のままで、活力判定や外観診断判定、総合判定の評価も 2 月の診断と変わらなかった。

総合判定は「B2：著しい被害が見られる」のままで、根元にベッコウタケ由来の大きな腐朽空洞（地表高 0.3m の腐朽空洞率 81.8%）があり、本来あるべき自立強度は確実に低下していると推測できることからこの判定とした。現状のままだと倒木の危険性は年月の経過とともに高まると考える。

本ケヤキは、葉は茂っているものの樹冠の茂りは全般的にうすく、梢の塊が不連続に散生するような茂り方をしている。西荻北 4 丁目の坂の上のけやき公園のケヤキ（通称「トトロのケヤキ」（景観重要樹木））と比べると、相対的な葉量は少なく（図 7）、樹勢に差があることが分かり、本ケヤキの樹勢は問題ないとは言えない。

トトロのケヤキにも幹の内部に比較的大きな腐朽があることが分かっているが、根元には腐朽はない。過去においても根や樹冠に影響を及ぼすような建物や樹木はほと



図 6 過去に折れた大枝の未閉塞部



図 7 当該ケヤキ(左)とトトロのケヤキ(右)との樹冠の比較

当該ケヤキは葉の茂りがうすく葉の間から枝が見えて、葉の塊が不連続に散生していることがわかる。これに比べトトロのケヤキ(2022.10.20 撮影)は葉が隙間ないほどに茂り、良好な生育を示している。

んどなかった。一方、当該ケヤキは根元にベッコウタケによる大きな腐朽が生育の障害となっていることと、過去には社叢内にあり他の樹木と競合する状況で育ったために、高く伸びあがった樹形であることが、トトロのケヤキとの樹勢の差に表れていると推察した。

最後に、東側の根元に新たなベッコウタケの子実体が発生しているのが確認できた（図8）。根元の腐朽は着実に進行していると考えられることから、できるだけ早く今後の管理方針を決めることを望む。



図 8 新たに発生したベッコウタケの子実体)